

おばあちゃんの家の畑

ニーちゃんは9才、ヒーちゃんは6才の女の子です。コロナウィルスがはやっているので長い間学校や幼稚園がお休みです。そこでおばあちゃんの住んでいる山梨県に行きました。おばあちゃんの家はお米をつくっています。けれど今は3月なので畑にはお米はありません。

次の日、「天気がいいのでおばあちゃんは畑に行くから2人ともついておいで。」と言いました。5分ほど歩いていくとピンク色の畑が見えてきました。それは大きなピンクのおふとんのように見えました。2人が走って近づいて見ると、それはレンゲの花でした。2人はレンゲがこんなにたくさん咲いているのを見たことがありませんでした。



2人が畑の端っこでレンゲを見ていると、おばあちゃんが「畑の中に入っていいよ」といいました。2人はうれしくなって入ろうとしましたが、レンゲがいっぱい咲いているので、レンゲを踏まないように考えていると、おばあちゃんが「大丈夫、踏んでもいいよ。いっぱい遊びなさい」といってくれました。レンゲに近づいて

見ると、たくさんのミツバチがレンゲにとまっています。「レンゲのみつをすっているんだよ。」とおばあちゃんがおしえてくれました。顔を近づけてもにげないで一生懸命すっているのです。あっちでもこっちでもみつをすっています。

おばあちゃんは少しはなれたところで、レンゲをいっぱい取っていましたが、「こっちへ来ておすわり。2人とも手を出してごらん。」と行って、手首をにぎって「わかった。」といました。すると5分もしないうちに、レンゲの腕輪ができあがりました。腕のまわりにレンゲがいっぱいくっついていきます。こんどは少し大きい首飾りをつくってくれました。

2人は、ハワイに行ったときに見たお姉さんのように、ダンスをはじめました。おばあちゃんは「はっはっはっ！」と笑っています。

少しきゆうけいしている時、ニーちゃんは「おばあちゃん、なんで畑にレンゲがさいているの」とたずねました。「へー感心だねえ。よく思ったねえ。」とってお話してくれました。

「秋になってお米ができた後は、何か月もがんばってお米に栄養をくれた畑をやすませてあげないといけないんだよ。それで、寒くなる前に、畑にレンゲの種をまくんだ。冬のあいだレンゲの種は土の中で、春になるのをじっとまっているんだ。そして3月になっていっ

せいに花をさかせるんだ。だからレンゲは自分勝手にさいているわけではないんだよ。花がさきおわるとそのまま畑でかかれて、土にもどるんだよ。このレンゲは窒素という栄養分があって、お米をつくる時に役に立ってくれるんだ。だからレンゲは美しい花で楽しませてくれるだけでなく、栄養分として役にたってくれるんだよ。少しむつかしかったかな。」

おばあちゃんの家にもどってくると、庭のはしの方に、大きな四角い箱がありました。よく見ると、たくさんのみつばちが、ぶんぶん飛んでいて箱の下から、中に入ったり出たりしています。「これが巣箱だよ。レンゲのみつを吸ったみつばちが、ここにもどってきて、みつをためているんだよ。何日かしたら、巣箱をあけて、はちの巣をとりだして、しばってはちみつをつくるんだよ。」と話してくれました。

1週間ほど前、2人はホットケーキを食べた時、はちみつをかけましたが、このようにしてはちみつができるのをしっておどろきました。

ニーちゃんとヒーちゃんは、はやく学校に行きたいと思っていますが、その夜、レンゲの首飾りをつけて楽しそうに踊っている夢をみました。

おしまい